

令和元年度地域包括支援センター課題対応取組み報告書

名称 北区地域包括支援センター

活動テーマ	我が事・丸ごとの地域づくり（堀川） ～マンション自治会や管理会社・マンション住民へのアプローチを通じて～
地域ケア会議から 見えてきた課題	○地域ケア会議対象者の半数以上がマンション居住者である。 ○マンションに自治組織がないもしくは自治組織はあっても、地域の自治会に未加入の為情報がなく、マンション内に民生委員等地域関係者も把握できない要援護高齢者が潜在化している。 ○オートロック等セキュリティが高いため外部から訪問等のアプローチが難しく、また、プライバシーや個人情報への配慮の為、管理人や居住者が情報発信（相談）をためらう傾向にあり、結果として早期介入が困難となっている。
対象	堀川地域の住民、マンション自治会、管理会社、町会関係者
地域特性	○区内最多人口・世帯数を有しており、高齢者人口も圏域内で一番多い。 ○古くから活気ある商店街があり、交通の利便性にも恵まれているため、新しい大型マンションも次々建設されており、古くからの家屋、大小様々な規模の集合住宅と居住形態も混在している。
活動目標	○マンション自治会や管理会社等、今まで繋がりのなかった関係者へのアプローチを行い、それを地域関係者と共有することにより、潜在化する高齢者の早期発見・早期支援体制の構築を目標とする。
活動内容 (具体的取組み)	R1年8月 認知症強化型包括支援センターとの課題共有会議 →堀川地域における要援護高齢者の潜在化を課題として抽出 R1年9/10月 堀川地域・小地域ケア会議開催 →地域内にある老人福祉センターでの出張相談会を企画 R1年10月 北区マンションコミュニティ支援事業の防災研修における包括周知活動実施（堀川地域・新規タワーマンション） R1年12月 堀川地域マンション個別訪問による包括周知活動① →相談歴のあるマンションをピックアップ
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	○包括周知と要援護者の早期発見・介入を目的として、地域内にあり利用者の多い老人福祉センターにて、CSWや地域福祉コーディネーターと協働した出張相談会&ミニ講座を継続して開催することができるようになった。 ○マンション個別訪問での周知活動を実施することにより、住民への幅広い周知ができたとともに、管理会社や管理方法等も含め、マンション毎に様々な特徴があることが判明した。 ○マンション課題検討会議では地域関係者と情報共有することにより、マンションの規模等に関わらず、町会未加入等で地域から孤立している重点支援マンションを抽出することができた。
今後の課題	地域との関係が完全にシャットアウトされているマンションに対しては、重点支援マンションとして、包括主導での個別アプローチが必要である。マンション管理人（管理会社）や自治組織と顔の見える関係作りから集会所等を利用した出張相談会や啓発講座等の開催を目指すと同時に、地域関係者に活動をフィードバックすることにより、地域との関係も構築できるよう働きかけていきたい。
※以下は、区包括運営協議会事務局にて記入。	
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和2年7月29日(水)
専門性等の該当	<input checked="" type="checkbox"/> 地域性 <input checked="" type="checkbox"/> 継続性 <input type="checkbox"/> 浸透性 (拡張性) <input checked="" type="checkbox"/> 専門性 <input checked="" type="checkbox"/> 独自性
今後の取組み継続に 向けてのコメント (区地域包括支援センター 運営協議会からの意見)	マンション管理人や居住者への訪問や地区診断により課題を分析し、地域と共に重点的に支援が必要なマンションを抽出する独自の取り組みは評価できる活動である。他地域への浸透も視野に入れ戦略的なマンションアプローチの取組により、支援の早期介入が図れるよう継続的な活動を期待している。

名称	北区大淀地域包括支援センター
----	----------------

活動テーマ	地域と専門職がつながりあい、共に支えあうネットワークづくり
地域ケア会議から 見えてきた課題	<p>地域との繋がりが乏しい高齢者や家族への支援、認知症、精神疾患の疑い、経済困窮、生活困窮を原因とする高齢者の支援が増えている。また、近隣トラブルなど、ケースが複雑し、介入が困難なケースが増えていることや家族自身の問題が複雑化している傾向にある。</p> <p>多様なケースが増えており、地域ケア会議の回数増え、地域の関係者と支援者が介して支援することが増えている。しかし、地域の関係者と専門職がつながれる場がケア会議以外にないことが課題に上がっている。</p>
対象	<ul style="list-style-type: none"> ・圏域内の地域関係者（地域福祉コーディネーター・民生委員・町会など） ・区内の専門職（区・区社協・保健師・プランチ・在宅医療CO・生活支援CO オレンジチーム・介護支援専門員）
地域特性	<p>東は都島区、西は福島区と東西に広く、地域性が多様である。</p> <p>高齢化率は、19.39%ではあるが、豊崎東、本庄、中津は20%を超えており、相談件数の伸び率も高い。20%を割っている地域においては、高齢者人口以外の増加により、高齢化率が低くなっているが、実際には、高齢者人口は増えている。</p>
活動目標	<p>小地域ケア会議の開催や地域のニーズに応じた講演会を実施する。</p> <p>専門職の強みを活かした活動を展開することで、地域関係者との架け橋になるように活動を展開していく。</p>
活動内容 (具体的取組み)	<ul style="list-style-type: none"> ・小地域ケア会議の開催（豊崎・中津） 豊崎地域では、年3回の開催計画を立てる。マッピング作業を通して、各町会の地区診断を実施。 ・中津地域では、前年度と同様に、地活協、地域社協、民生委員の方々と日ごろの活動から見えてきた課題について、話し合いを実施。 ・圏域内の全地域で、地域のニーズに応じた講演会や啓発活動を実施。 ・介護支援専門員向けの研修会を老人福祉センターで実施し、地域の資源の紹介を行い、インフォーマル資源集の配布を年度末に行う。 ・地域ケア会議の年度の振り返り、まとめの会議の開催 地域関係者、専門職とそれぞれ、グループワークを開催し、地域課題の共有を行う。また、次年度に向けての取り組みについて、意見交換を実施
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	<ul style="list-style-type: none"> ・小地域ケア会議においては、地域の資源について幅広く知ることができ、各専門職の役割を理解してもらえる機会になった。地域関係者においても、日ごろの活動を振り返るきっかけにもなり、専門職へつなぐ意識を持っていただくことができた。 ・老人福祉センターの協力を得ることにより、幅広く集客が見込め、多数の方に地域の資源を周知することができた。 ・介護支援専門員からは、老人福祉センターで研修を実施したことで、担当している利用者への啓発、地域の資源を知るいいきっかけになったとの声をいただく。 ・次年度に向けての活発な意見交換ができ、計画書に反映することができた
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の課題に対して、包括含め、専門職がどういったアプローチが展開できるのか、まだまだ模索状況である。 ・介護支援専門員と地域がつながれる場が少ない。 ・地域包括ケアシステムの構築にむけて、4事業間のネットワークを強くしていく必要がある。
※以下は、区包括運営協議会事務局にて記入。	
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和2年7月29日(水)
専門性等の該当	<input checked="" type="checkbox"/> 地域性 <input checked="" type="checkbox"/> 継続性 <input type="checkbox"/> 浸透性 (拡張性) <input checked="" type="checkbox"/> 専門性 <input type="checkbox"/> 独自性
今後の取組み継続に向けてのコメント (区地域包括支援センター 運営協議会からの意見)	<p>地域と意見交換や地区診断を行い、地域のニーズに応じた講座等の取組をしていることは評価できる。専門職として地域の声を大切に今後もネットワーク構築への取組を推進してほしい。</p>